

### (3) 図書館リテラシー教育の教育組織との効果的な連携に関する企画・実施

図書館情報メディア研究科 山本 順一  
システム情報工学研究科、学術情報メディアセンター 大保 信夫

#### ‘図書館リテラシー’ コースウェア検討プロジェクト

##### 1. 本プロジェクトの趣旨

デジタル・ネットワーク社会として成熟に向かおうとしている今日、他の歴史社会と比較して‘情報リテラシー’の意義は格段に大きい。たんなる‘読み書き’能力を超えて、コンピュータとネットワークを中心に構成される情報インフラストラクチャーのうえで、情報を収集、評価し、分析・加工を加え、新たな情報や知識を創造し得る能力の獲得が必要とされている。本プロジェクトにおいては、そのような社会的要請を真摯に受け止め、筑波大学の学生を対象として、総合科目の編成を考慮しつつ、学術情報のゲートウェイである附属図書館の擁する多様な固有の情報資源と接続するサイバースペースに散在しているデジタル情報やコンテンツの利活用能力を合理的かつ迅速に修得させるプログラム作りを目的としている。

2005（平成17）年度においては、コースウェア開発の概略検討を行なった。次年度には、eラーニングについても視野に含めた作業を展開する予定である。

##### 2. コースウェア開発の概略検討

いまのところ十分には詰め切れていないが、コースウェアの構成については、インターネット情報検索一般、筑波大学附属図書館ポータル活用の活用、国立情報学研究所や科学技術振興機構が提供する情報資源などを対象として検討を続けており、論文やレポートの書き方ノウハウについても一部射程におさめている。

##### 3. 本プロジェクト参加者（50音順）

石井大輔（図情メ研院生）、今井武（図情メ研院生）、上原由紀（附属図書館）、岡部晋典（図情メ研院生）、川戸理恵子（図情メ研院生）、気谷陽子（附属図書館）、坂本俊（図情メ研院生）、千錫烈（図情メ研院生）、田嶋知宏（図情メ研院生）、長屋俊（図情メ研院生）、中山愛理（図情メ研院生）、名城邦孝（図情メ研院生）、原淳之（図情メ研教員）、松崎博子（図情メ研院生）、松本圭以子（図情メ研院生）、真中孝行（附属図書館）、丸山輝芳（附属図書館）、山本順一（図情メ研教員）、吉田敏也（図情メ研院生）

##### 4. 検討会の実施

本プロジェクトについては、月1回（第1火曜日を原則）春日キャンパスにおいて、定例検討会を実施した。

第1回検討会……2005年11月1日（火） 第2回検討会……12月6日（火）

第3回検討会……2006年1月10日（火） 第4回検討会……2月7日（火）

第5回検討会…… 3月7日（火）

## 最近の‘情報リテラシー教育’について

図書館情報メディア研究科教員 原 淳之

その意味するところには幅があるが、‘情報リテラシー’という言葉が用いられる背景には、情報の収集、評価、分析、加工、そして新たな情報・知識を創造し得る能力の育成が社会的に必要なものであるとの認識がある。実際、論文やレポートなどの作成に限らず、様々な局面で‘Reading’（読み）、‘wRiting’（書き）、‘aRithmetic’（計算）という従来のリテラシーとされた「3つのR」(three R's)に加え、‘Reference’（参照＝調査）や‘Retrieval’（情報検索）、‘pResentation’（プレゼンテーション）といった、情報の活用にかかわるその他の‘R’の活動が強く求められている。

本プロジェクトでは現在の高度化した情報環境を前提とする内容を検討しており、経済的価値をもつ既製の情報の利用という知的財産に関する諸問題など、デジタル・ネットワーク社会に特有となったルールやモラル、サイバースペースに沈んでいる情報を取捨選択する技法などについて検討を重ねている。情報の収集から、評価、分析・加工を加え、新たな情報や知識を効果的に創造するまでの各段階を有機的な一連のプロセスのなかで捉え、研究分野を超えて合理的な手続き過程を構想するところに本プロジェクトのひとつの特色がある。

‘情報リテラシー’はきわめて実践的な能力である。本プロジェクトは、筑波大学の学群・学類2年生を対象とし、情報の活用にかかわる基礎的なリテラシーを育成するコースウェアやプログラムを検討する。ここでは、基礎的な情報リテラシー技法の適用を通じて、みずから関心を寄せているテーマに関して、受講生各自がひとりでレポートの作成が仕上がるという実践的なシステムをイメージしている。また、理論研究は個人的な営みとして行われることが多いが、先端的な巨大科学はリーダーシップとチームワークを必要とする。ここで目的としている‘情報リテラシー’教育においても、ときにグループ学習を通じた相互啓発的な方法の導入を検討している。

本プロジェクトで検討する‘図書館リテラシー’の育成は、筑波大学の附属図書館が擁する学術情報資源を舞台として構想している。アナログ情報資源については、附属図書館は、筑波大学設立以来の豊富なコレクションに加え、図書館情報大学を併合しさらにそのコレクションを強化した。一方、近年、情報通信技術(ICT)の高度化に見合う形で、有償・無償の利用可能なデジタル情報やコンテンツへのアクセスを提供している。筑波大学の教育研究や学習活動は、附属図書館から提供されるこれらリアルワールドからサイバースペースにまたがる豊富な情報資源を積極的に利活用できなければ一流とはいえない。本プロジェクトは、文部科学省が標榜している特色ある大学造りに資する内容をもち、国立大学にこれまで染み付いてきた画一性を打破し、学問的な差別化を目指す‘筑波大学らしさ’を創造しようとする試みのひとつでもある。

テーマ	①情報ニーズとインターネット情報検索		
作業分担者	千 錫烈 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 岡部 晋典 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 長屋 俊 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 吉田 敏也 (図書館情報メディア研究科博士前期課程)		
このユニットのねらい			
広く日常的に利用されている一般的な主要検索エンジンの利用をあらためて見直すことを目的とする。主要検索エンジンの利用で求めるドンピシャりの情報が得られることもあれば、隔靴搔痒の思いをすることも珍しくない。主要検索エンジン等の効用と限界を再確認しつつ、一定程度の検索テクニックを習得し、情報検索力を向上させる。			
このユニットで使用する主な資料、ツールとその特性			
	名 称	特 性	備 考
主な資料・ツール	Yahoo!JAPAN	ディレクトリ構成を持つポータルサイト。各種サービスメニューを備えている。	一番よく利用されているポータルサイト
	Google	代表的検索エンジン。各種の新たなサービスも提供し始めている。	Google Local
	各種ポータルサイト	いくつかの独自の構成をもつ専門分野に強いポータルサイト、地域性の高いポータルサイトをとりあげる。	リクナビ；つくナビ、つくばポータルサイト、etc.
例題のイメージ			
たとえば、‘サークルの合宿で伊豆へいくことにした’ など、学生の日常生活に即した話題を起点として、関連する種々の情報ニーズに対応するインターネット情報資源の探索に拡大してゆく。			
演習問題の構成			
つくばの学生が日常的に抱えている情報ニーズを具体化した問題を並べ、効果的な情報源を見出せる仕掛けを提示したい。問題に取り組む、情報検索技術に関心を持ってもらうとともに、検索への主体性の涵養をめざしたい。 YAHOO!を使って検索するグループとGoogleを使って検索するグループなど、ツール別に分かれて検索演習することで、検索エンジンの種々の側面の相違を認識してもらえればとも思う。			
留意点	高校で2003年度から必修となった情報科教育の到達度についても確認したい。 携帯端末からの検索についてもいづらか考慮してみたい。		

テーマ	②情報追求の基礎的技法		
作業分担者	田嶋 知宏 (図書館情報メディア研究科博士後期課程) 坂本 俊 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 松本圭以子 (図書館情報メディア研究科博士前期課程)		
このユニットのねらい			
<p>特定主題に属する情報探索を行うとき、その疑問、質問の中核をなす概念をそのまま‘キーワード’として選び取り、検索エンジンや百科事典などの参考図書にあたれば、一応満足のゆく情報が得られることが多い。しかし、求めている情報がニッチ情報やマニアックな情報、見解が分かれる高度に専門的な情報や最新の情報などに該当する場合には、情報そのものではなくて、求める情報につながる経路や情報源を探すことになる。いわゆる‘レフェラル・サービス’への展開の認識を得ることがこのユニットの狙いとするところでもある。</p>			
このユニットで使用する主な資料、ツールとその特性			
	名 称	特 性	備 考
主な資料・ツール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レファレンス・ツール概観</li> <li>2. 専門家・専門機関情報</li> <li>3. 学協会情報</li> <li>4. 専門図書館情報</li> <li>5. つくばWAN「つくば知的資源サイバーモール」</li> </ol>	<p>「大宅壮一文庫雑誌記事索引」等も取り扱う。</p> <p>つくば地区の研究機関の擁する研究開発情報等のポータルサイト</p>	<p><i>Guide to Reference Books</i>、「日本の参考図書：解説総覧」「各種団体名鑑」等、定評のある伝統的ツールにもふれる。</p> <p>「学術情報インデックス」等のデジタル・ツールにも十分な目配りをする。</p>
例題のイメージ			
<p>‘あらゆる分野にジテン (encyclopedic reference tool) がある’ ‘あらゆる分野に雑誌・新聞 (業界紙誌) がある’ ‘あらゆる分野に専門家・専門機関が存在する’ ということを認識させ、執念深く追求すれば求める情報に到達するという‘公理’を、例題を通じて演出してみたい。</p> <p>このとき、伝統的な冊子体レファレンス・ツールと生成途上のインターネット・レファレンス・ツールにも言及するものとする (ただし、個人等で運営しているサイトの中には泡沫的なものが少なくなく、不安定なので慎重に処理する)。</p>			
演習問題の構成			
<p>この‘図書館リテラシー’コースの入口にあたるので、受講生が日常的に関心のある身の回りの話題を素材としてみたい。</p> <p>たとえば、「寿司ネタにイクラが用いられたのはいつ頃からか。どこの寿司屋がはじめたとされるか」「江戸時代に‘天紅’ (あまがべに) という口紅が吉原で大流行した。その色や組成はどのようなものであったのか」「東京の下町で人骨スープのラーメンが売られていたそうだ。詳しい情報は」など意外性のある問題をラインナップし、飽くなき情報探索意欲を掻き立てたい。</p>			
留意点	特になし		

テーマ	③情報の複製、加工：論文作法		
作業分担者	気谷 陽子（附属図書館情報サービス課） 川戸理恵子（図書館情報メディア研究科博士後期課程） 中山 愛理（図書館情報メディア研究科博士後期課程）		
このユニットのねらい			
図書や雑誌論文の書誌データの取り扱い方法と適切な引用の方法を習得させる。 (1) 書誌的要素の理解と記録の仕方 図書、雑誌論文、Webページの書誌データを文献ファイルに記録し、小論文の引用文献リストに記載する演習をとおして、書誌データの取り扱い方法を習得させる。あわせて、RefWorks（文献情報管理・論文作成支援サービス）の使い方を紹介する。 (2) 適切な引用の方法（情報の複製、加工方法） 著作権侵害の事例をとおして引用と剽窃の相違を理解させる。あわせて、EYEマークなど、情報格差を解消し、情報の活用を促進するための仕組みを紹介する。 (3) 論文等作法 論文やレポートの書き方、プレゼンテーションについてもふれたい。			
このユニットで使用する主な資料、ツールとその特性			
	名 称	特 性	備 考
主な資料・ツール	論文等の書き方、プレゼンテーションの仕方	初歩的な内容の論文の作法、プレゼンテーションの仕方に関して。	簡潔明快な資料の作成を考慮
	RefWorks	ERICやPubMedなどの二次資料データベースの検索結果から書誌データを取り込んで個人用文献ファイルを作成できる。	日本語の二次資料に対応していない
例題のイメージ			
(1) 図書の例題にはシラバスに掲載された図書を割り当てて用いる (2) 雑誌の例題にはRefWorksの対象とされている二次資料データベースに採録されている雑誌論文を割り当てて用いる (3) Webページの例題には出身縣市町村の自治体のページを各自が検索して用いる			
演習問題の構成			
(1) 図書と雑誌は、履修生が実際に手にとって書誌データを確認する (2) 文献ファイルシートと引用文献シートは、書誌データの取り扱いに慣れていない履修生でも、適切な書誌的記述へと誘導できるように配慮して設計する (3) 雑誌論文は、履修生が作成する文献ファイルシートと、RefWorksで作成するファイルを比較させる (4) TA（図書館情報メディア研究科大学院生）が文献ファイルシートおよび引用文献シートを確認し、書誌的記述の誤りがあれば履修生とともに訂正する			
留意点	特になし		

テーマ	④公的情報に関するインターネット情報資源		
作業分担者	名城 邦孝 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 石井 大輔 (図書館情報メディア研究科博士前期課程)		
このユニットのねらい			
国内外の公的情報は、国際機関や各国政府のホームページ等から有用な情報を入手することができる。その方法を具体的に修得することを目標としたい。また、政府のホームページで入手することができない情報についても、情報公開窓口などから情報を得ることができる。主要なNGO等のホームページも有益である。			
このユニットで使用する主な資料、ツールとその特性			
	名 称	特 性	備 考
主な資料・ツール	電子政府の総合窓口	ホームページで提供している行政情報を有効に活用するための、総合的な検索・案内サービスを提供している。	ここでとりあげた主要なポータルサイトから、個別のサイトに行き、実際にはそこから情報を収集する。
	統計データ・ポータルサイト	特に統計に関して総合的に扱っているポータルサイト。	
	衆議院インターネット審議中継	ビデオライブラリにより、国会審議テレビ中継を収録した音声と映像をそのまま提供している。	
例題のイメージ			
たとえば、BSEについて興味がある⇒食の委員会、農林水産省のホームページ、関係法令の探索⇒アメリカの連邦政府のHP⇒日米の業界団体等のウェブページetc. 報酬費 (外交機密費) について知りたい⇒電子政府の総合窓口の行政文書ファイル管理簿から文書を探す (→外務省の窓口に行く) ⇒マスコミ、watchdogグループのHP etc.			
演習問題の構成			
重要と思われる時事的問題、国内外の学生が知っておくことが望ましい問題を取りあげたい。国際機関、外国政府、日本政府、地方公共団体、NPO・NGOなどのWebページに親しませる。			
留意点	ツールで挙げた審議中継のように、今後、公的機関による動画データもインターネット上で見ることがさらに可能となっていくと思われる。そのような動きを具体的に言及できればと思っている。		

テーマ	⑤筑波大学附属図書館ホームページ (I) 附属図書館のリソースの総合的解説と図書の探索		
作業分担者	石井 大輔 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 原 淳之 (図書館情報メディア研究科助手) 松崎 博子 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 気谷 陽子 (附属図書館情報サービス課)		
このユニットのねらい			
<p>(1) 「筑波大学附属図書館ホームページ」の4回シリーズの導入部 附属図書館のリソースを総合的に解説し、附属図書館のホームページが学習・研究に必要な情報を収集するための有用なポータルであることを理解させる。</p> <p>(2) このユニットの個別の内容 附属図書館において一般的な和洋図書の検索ができ、迅速かつ効果的にその所在(配架場所)に到達できるスキルを獲得させる。</p>			
このユニットで使用する主な資料、ツールとその特性			
	名 称	特 性	備 考
主な資料・ツール	附属図書館Webページ	附属図書館が提供する多様なリソースへのポータル(玄関口)として、リンクサービス、横断検索、各種Webサービス等が整備されている。	附属図書館に関する4回シリーズの導入として、各ユニットの位置付けを示す
	附属図書館OPAC	中央図書館では150万冊の図書が全面開架されている。また、館内には多数の利用者用パソコンが設置されている。	中央図書館で、図書の検索から入手までの情報探索行動を実際に体験させる
例題のイメージ			
<p>(1) 辞書・事典等、図書が多く掲載されている参考文献リストを例題として用いる</p> <p>(2) 受講生それぞれが、(1)で割当てられた例題に従って設定した各自の主題にもとづいて、その主題に関連する参考文献リストを作成する。→文献の探索結果を例題回答シートに記入、提出。</p> <p>(3) 例題とする参考文献リストの例 『国史大辞典』(吉川弘文館)の「樋口一葉」の項目より 塩田良平『樋口一葉研究』、同『樋口一葉』(人物叢書50)、和田芳恵『一葉の日記』、関良一『樋口一葉・考証と試論』</p>			
演習問題の構成			
<p>(1) 履修生が10点程度の図書についてOPAC検索、所蔵の確認、配架位置の確認、所在の確認を行ない、探索結果を例題回答シートに記入する。→提出。</p> <p>(2) TA(図書館情報メディア研究科大学院生)が個々の例題回答シートを確認し、履修生が探索に失敗した例題については、検索の失敗、未所蔵、貸出中、配架の間違いなどに関し、失敗の要因を履修生とともに検証する</p>			
留意点	特になし		

テーマ	⑥筑波大学附属図書館ホームページ (Ⅱ) 雑誌の検索および検索結果から所蔵・所在を確認する		
作業分担者	丸山 輝芳 (附属図書館情報サービス課) 名城 邦孝 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 田嶋 知宏 (図書館情報メディア研究科博士後期課程)		
このユニットのねらい			
附属図書館OPACから雑誌を検索し、検索結果から所蔵および所在情報を把握する。電子ジャーナルの特性及び利用における注意点を理解する。本学に所蔵のない雑誌について他機関の所蔵を確認する。新聞所在情報を確認する手段について説明する。			
このユニットで使用する主な資料、ツールとその特性			
	名 称	特 性	備 考
主な資料・ツール	附属図書館OPAC	本学所蔵の雑誌 2 万 4 千タイトルの所蔵および所在情報が検索できる。	一致検索により雑誌の所在情報等を確認する。
	Webcat Plus	全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌を検索できる。	
	全国新聞総合データベース	新聞の所蔵機関、所蔵情報を検索できる。	
	Science Direct	さまざまな分野の電子ジャーナルを利用できる。	
例題のイメージ			
(1) 論文等に掲載されている参考文献リストを例題として和雑誌、洋雑誌の表示方法について説明する。 (2) 電子ジャーナルについては、国内 (日本語) とともに、海外 (英語) のScience Direct等に触れる。			
演習問題の構成			
(1) 和雑誌・新聞等の参考文献リストから、所蔵、所在を確認する。 (2) 雑誌に関するILLの利用方法を体験する。 (3) 電子ジャーナル を用いた課題としてノーベル賞受賞者 (白川英樹、小柴昌俊等) の論文を探す。			
留意点	特になし。		



テーマ	⑦筑波大学附属図書館ホームページ (Ⅲ) 一般的な文献探索の流れ		
作業分担者	真中 孝行 (附属図書館情報管理課) 中山 愛理 (図書館情報メディア研究科博士後期課程) 坂本 俊 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 松本圭以子 (図書館情報メディア研究科博士前期課程)		
このユニットのねらい			
<p>①筑波大学附属図書館の所蔵資料の探索の仕方を修得させる。</p> <p>(1) から (5) までの流れを理解させるために必要な情報探索技術を身につけさせる。</p> <p>(1) 研究テーマの設定 (2) 二次資料による探索 (3) 所蔵調査 (4) 文献の入手 (5) 研究に着手</p> <p>②設定した研究テーマに関する文献情報等を探索する技法を修得させる。</p>			
このユニットで使用する主な資料、ツールとその特性			
	名 称	特 性	備 考
主な資料・ツール	1 各種検索エンジン等 ・OPAC ・NACSIS Webcat ・NDL-OPAC	図書、雑誌等の各種の検索 検索性能と検索結果等の相違を理解する。	
	2 「出版年鑑」その他販売書誌等 (Webページを含む)	現在販売されている文献、過去1年間に どんな本や雑誌が発売されたかを知る。	各国版の <i>Books in Print</i> 、 <i>Books out of Print</i> 等
	3 筑波大学附属図書館のWebページ ・文庫・コレクション、学位論文等	特定分野における情報探索	
	4 過去・現在のニュース情報	過去の記事の抜粋、縮刷、年鑑、HP	
例題のイメージ			
特定のトピックについて、現在の報道記事から遡って関連する過去の情報にアクセスし、当該トピックについての歴史的、構造的理解を体得させる。			
演習問題の構成			
<p>(1) 特定のテーマに特徴的なメディア探索手法に気付かせる問題を作成する。</p> <p>(2) 同じテーマ、トピックでも、異なるメディアが利用できることを認識させる問題を作成する。 (記事索引、縮刷版、年鑑、マイクロフィルム等を活用し、情報探索を行う。)</p>			
留意点	特になし		

テーマ	⑧筑波大学附属図書館ホームページ (IV) 2次情報データベースの利用		
作業分担者	川戸理恵子 (図書館情報メディア研究科博士後期課程) 千 錫烈 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 今井 武 (図書館情報メディア研究科博士前期課程) 上原 由紀 (附属図書館情報サービス課)		
このユニットのねらい			
<p>個々の(書誌的)データベースの特性を理解し、特定のテーマに沿った文献を探ることができるようになること。</p> <p>適切なキーワードの選択方法や、検索する言葉がどの項目に現れるのか、検索する言葉の関係(論理演算)、出版された時期、範囲などを特定して検索する方法を理解させる。</p>			
このユニットで使用する主な資料、ツールとその特性			
	名 称	特 性	備 考
主な資料・ツール	CiNii	国立国会図書館雑誌記事索引をはじめとする4種のデータベースを一括検索	例題を使用して概要を理解させた後、各人の設定したテーマに沿って検索実習を行う。
	Webcat Plus	連想検索によりテーマに関連する図書を検索、所在図書館情報も表示	
	Web of Science	論文の引用関係が明らかになっており、関連する論文へのリンクなどの機能がある。	引用の意味を理解する。(研究の流れ・論文の影響力など)
例題のイメージ			
<p>(1) 不登校(登校拒否・学校恐怖症)に関するここ5年間の論文を検索する(CiNii 同義語によるOR検索、出版年による絞込み検索など)</p> <p>(2) 不登校(登校拒否・学校恐怖症)に関する図書を検索する(WebcatPlus連想検索)</p> <p>(3) ノーベル賞受賞者(白川英樹、小柴昌俊等)の論文が引用されている件数を調べる(Web of Science)</p>			
演習問題の構成			
<p>(1) 5～10件程度の例題について、履修生全員がデータベースを検索し、検索に使用したキーワード、検索結果件数などを回答シートに記入する。それぞれの履修生が提出した回答と検索結果を照合し、結果の違いを検証し、よりよい検索方法を学習する。</p> <p>(2) 上記の検索方法を参考にして、履修生が各自で設定したテーマに沿って検索を行う。</p>			
留意点	特になし		

テーマ	⑨国立情報学研究所（NII）、科学技術振興機構（JST）の各種メニューの検討		
作業分担者	松崎 博子（図書館情報メディア研究科博士前期課程） 気谷 陽子（附属図書館情報サービス課）		
このユニットのねらい			
NII、JSTが提供する独自の情報探索メニューを履修生に印象付ける。			
このユニットで使用する主な資料、ツールとその特性			
	名 称	特 性	備 考
主な資料・ツール	・NIIのホームページ上の各種メニュー	・独特なデータベースを抱えている。 ・学会情報、研究者情報に関するデータベースも抱えている。	・CiNii、Webcat、Webcat Plusは、取り扱わない ・ReaDなどで研究者情報を探索する
	・JSTのホームページ上の各種メニュー	・J-STAGE、J-EASTなど大規模なデータベースと、独特なデータベースを複数抱えている ・学会が発行する電子ジャーナルのデータベースを抱えている。	・J-STAGEなど ・(ReaD)
例題のイメージ			
NII、JSTが提供するメニュー（10個程度）を印象付ける、簡単で、奇抜な例題を提示する。 あるいは、研究者情報を探索する。			
演習問題の構成			
例題の応用編となるように、複数の分野（履修生の所属する分野）の問題を10個程度作成する			
留意点	「独特なデータベースの存在」、「研究者」、「学会」がこのユニットのテーマである。		